

平成 30 年 12 月議会 成川正幸

どなた様もお疲れ様でございます。発言通告に従い 3 項目について一問一答方式により質問を致します。

先ずは

**1. 都市公園の活性化について** です。

(1) 現在、市内には市が所有する都市公園、農村公園と言われる公園がいくつも各地に整備されています。これらの公園は、整備した当初は一定の役割を果たしていたと思われませんが、時代の流れと人口減少、少子化が進展していく中で、その存在意義が問われています。

私が見る限り公園の現状は、運動公園でスポーツをしている姿は見られますが、それ以外に利用する方が少ないように感じます。それは、時代と共にニーズの変化などで利用しにくくなっているのではないかと考えます。多くの方が利用するために作られたはずなのに、利用者が少なく寂しい状況です。そこで本市における「公園」、特に「都市公園」について現状と課題をどのように捉えているのか都市建設部長に伺います。

(2) 公園は誰のものなのか。市民のものであると思いますし、一番利用するのは誰なのでしょう。利用する人たちが自分たち事に思わないと公園が近くて遠い場所になり、近寄らなくなるのではと考えます。また誰でも利用できる身近な公共の場のはずの公園ですが、規制が邪魔をして魅力のない場所になって居るのではと考えます。そこで、市内にある公園をバーベキューが出来る、芝生で寝転がる事が出来る、ボール遊びが出来る、犬と一緒に遊べる、音楽イベントが出来る、マルシェで食事が出来るなど、行きたくなる公園に変えることで、中途半端で魅力が少ない公園を特徴を持った公園に整備することが出来るのではないかと考えますがどうか、都市建設部長に伺います。

(3) 行きたくなる公園にするために全国各地で、市民と一緒に取り組む自治体が増えています。全国のいくつもの自治体で行われているのが「パークマネジメント」と言われる手法です。

そのパークマネジメントとは、公園をただ維持管理するのではなく、都市経営視点で、公園を運営していく考え方で、例えば公園にカフェや保育所を設置するなど、公益的な取り組みで収益をあげながら、維持管理等を含めて公園を経営していくことです。

全国では、ハード面は自治体が受け持ち、公園の具体的な利用方法やルールづくりは地域の関係者で作る団体に任せる。そして運営費は、行政からの補助

金に頼らず、出店した店舗から売り上げの一部を地域還元費として寄付し、公園で会が企画するイベントなどの資金にあてている例もあります。

そこで、本市でも「パークマネジメント」の導入が出来ないか都市建設部長に伺います。

では、次の項目に移ります。公園の質問に関連して、

## 2. 子どもたちの外遊びについて です。

(1) 私の子どもの頃は、近所の空き地や稲刈りの後の田んぼで缶蹴りや陣地取り、冬は屋根雪が落ちた雪山でソリなど、室内より外で遊んだ記憶の方が強く残っています。

しかし今、子どもたちが外で遊ぶ姿や声を聴かなくなりました。

これは黒部市だけに限ったことではなく全国共通のようです。

理由として、5つ

①学校の統廃合で学区が広域になり、スクールバスや親の送り迎えが多くなったこと。

②塾や習い事など、子どもたちが多忙になり、遊ぶ時間が限られるようになったこと。

③防犯上の理由から、子どもたちだけで遊ぶことが少なくなったこと。

④人口減少や少子化の影響で近所に子どもが少なくなったこと。

⑤インターネットなどの普及などにより外遊びからテレビゲームなど室内の遊びへと変化していること。などが上げられます。

本市にも「子ども・子育て支援事業計画」が策定されていますが、基本理念に「子どもの声が聞こえる明るいまち」とあります。

子どもたちが楽しく遊べる環境づくりは私たち大人の責任でもあると思います。

そこで質問です。

今の子どもたちの遊びの現状をどう見ているのか市民生活部長に伺います。

(2) 外遊びは、季節を感じながら屋外で仲間たちと思いきり遊び、たくさんの体験をする、子どもたちが成長する上でとても大切な時間だと思います。

その外遊び。全国各地で取り組まれている事として「冒険遊び場」いわゆる「プレーパーク」事業というものがあります。

今、子どもたちは遊びの種類減少と単純化、そして集団遊びが減少していると言われていています。そんな中で、プレーパークは、豊かな自然環境の中、木登りやたき火、泥遊びなどに挑戦できる遊び場で、モットーは、「自分の責任で自由に遊ぶ」です。

現在、プレーパークは全国に 600～700 か所存在すると言われていています。しかし、富山県内にはまだありません。子育てするなら黒部市、子どもたちに遊びに行きたい場所は黒部市と言っていただけるように県内初のプレーパークを整備してほしいのですが、如何でしょうか。都市建設部長に伺います。

次の質問です。

(3) プレーパークでは、子どもたち自らが、何が安全で何が危険なのかを頭で考えて行動する事も学んでいます。ただ、子どもたちが安心して外遊びするためには、大人のコーディネート役が必要だと考えます。全国のプレーパークでは、子どもたちのフォローとして「プレリーダー」という指導員を配置して、遊びをサポートしています。こういった指導員は、ある程度のノウハウが要求されますが、本市には、そういったノウハウを指導できる場所として「黒部市ふれあい交流館あこや一の」があります。

外遊びの指導員、いわゆるプレリーダーを要請する講座の開催も出来るのではないかと考えます。大人から子どもたちへ、そしてまたその子どもたちから、そのまた子どもたちへ、自然の中で生きるチカラを受け継いでいく。そんなことが本市で出来たらと考えます。

そこで、指導員の養成講座を開催してはどうかと思うのですが、どうか市民生活部長に伺います。

(4) 現在の黒部市子ども・子育て支援事業計画は、2019年度までとなり、2020年度から次期計画になります。来年度は次期計画の本格的な策定作業に入っていくと思われま。

そこで、これまでお話ししたような外遊びの重要性を次期の「黒部市子ども・子育て支援事業計画」に盛り込んでいただけないか市民生活部長に伺います。

### 3. 障がい者就労について

(1) 本市は教育委員会を含め 11.5 人が不足していたと報道されました。現状と今後どのようにしていくのか総務企画部長に伺います。

(2) 現状の業務内容、そして今よりも増加する障害者の業務内容はどのようになるのか、総務企画部長に伺います。

(3) 障がい者の生活を向上させるためには就労をして、そして就労した後も今以上に工賃アップが必要です。

しかし、福祉事業所と県内企業は、95.7%の高い率で取引が無いと平成 30 年

1月実施で235社から回答を受けたと報道されたところです。

今後、働きたいと希望する障がい者の数も増加すると予想されます。

先日、富山県内10月の有効求人倍率が発表になり、倍率1.93倍で10か月連続の1.9倍以上の高水準となりました。

探せば、障がい者の仕事ももっとあるのではと考えます。

そこで、企業と障がい者とのマッチングを今以上に強化、サポート出来ないか、現状と合わせて市民生活部長に伺います。